

グループA

道路は人のためにある

コンパクトシティ
住民が自治範囲を決めて暮らしていく

目標

子育ての各拠点までの道路の安全

自転車・人が中心の道路とまち。歩道の確保。

-通過
-輸送
-長距離移動
住み分け

子どもが遊べる道づくり

防災インフラの整備
密集地の最小限の道路・広場

通過する車を渋滞なく通すための道路整備

まちづくりの現場の声をすい上げる中間的組織

サステイナブルシティ
循環型コミュニティ

リージョン
生活文化圏
住民が自治の範囲を決めて運営する

施策

交通機関の共用化
企業の送迎バスは朝晩しか走らないとはしない。

道路、鉄道
交通基盤の整備

使い捨て用品を減らす。
条例化する

コンパクトシティという考え方を採用する

道路
広場
コミュニティ単位で確保

ゴミを有料で集める。

(公共)
都市施設の機能の複合化を図る

課題

安全に楽しく歩ける道が繋がっていない

子育て各拠点までの道路の危険

歩道が整備されていない

歩道がない
韓国では歩道のない道路はありえない

小さな単位の活動拠点をバラエティ豊かに用意する

今ある施設をいかに壊さないで利用するか考える

道に迷ってしまう道が入り込んでいる。住所表示が平面的。

遊べる道がなくなった

新しく建物を建てる場合は、駐輪場を義務化。

一般の人、子供や老人にも安全で便利な移動手段の整備

“まち”で行われる活動・プログラムからインフラを考える。

地域毎にまちづくりコーディネーターを置く。

<施設>
・商店街の活性化
・商店街を核とするまちづくり

生活圏の中を住民がデザインする。

地域の特徴を生かした街づくり
北部・南部・中部

消防車・救急車が入れるための道路

グループA

居場所がある
子供も大人も
高齢者も

職・住・遊・育・自然
近接のまち
文化・歴史・芸術

川崎ならではの
まちづくりの視点・仕組み
川崎の資本は
人のつながり

目標

- 公園のない地域に公園を
- 各区内にプレイパークがほしい。遊びのプログラム
- 子供も大人も遊べるまち
- ストックインフラの有効利用・共有化 公共施設・設備
- 大人の居場所がない。
- 子供がのびのび遊べる町かわさき

- 総合的なコミュニティ 機能別の計画は、見直し。職・住・遊・文化の接近。
- 環境教育が全ての川崎の子供たちに
- 自然や歴史文化を感じて暮らせるまち
- 職業意識教育を全ての子供に
- 自然が失われてしまった
- 公園・緑地・大人向けブランコ・すべり台ではなく、いこいの広場鳥が来る

施策

- 子供が5分くらいで行ける範囲に小さな遊び場・公園を
- プレイパークのできる場所を各区内
- 自然を残した遊び場公園
- 人口増加地域の保育・教育施設不足
- 公園のない地域がある
- 子供関連施設の老朽化
- 子育てバリアフリー 子供にやさしいまちづくり
- 使われない公園の見直しを
- 子供関連施設の老朽化対策

- 快適な散歩道ネットワークをつくる
- 河川が下水化してしまった
- ピオトープネットワークをつくる
- 密集市街地の環境整備
- ブランコの板を布か皮に
- 市民の活用できる海を!

課題

- <課題> ソーシャル・キャピタル 社会関係・資本の構築 ヒューマン・ウエア
- まちづくり ことづくりの人材育成
- 町会 自治会 課題をすいあげる仕組みづくり
- プログラムづくり
- 誰でも分かるサインや多言語化
- プレイリーダー コミュニティリーダー 活動できる人の育成
- 子育て世代の視点の不足
- 多文化共生の視点
- 町会～行政までの意見がながっていく仕組み
- 子供の視点の不足
- 市民主体のまちづくり アダプト・プログラム 里親制度 行政がつくった仕組みを市民にゆだねる
- まちづくりの基本を守っていこう 1.適切な情報公開 2.市民と一緒に考える 3.独自性を守る
- 生涯学習がまちを元気にする。学び合うまち。社会教育の充実。
- 多世代共生
- 外国人市民、障害ある人、子供など声を出せない人の意見が入りにくい。「参加できない」
- 川崎のアイデンティティ 川崎と言えば
- 人と人の距離の 人権教育をまちづくりの導入教育におくこと。そして継続すること。
- 住民の声を集めても、活かされていない。(行政から関係者への結果提示)
- 市民とは誰か 活動する市民の声強い
- 生活情報が届かない市民がいる。単身者、外国人。

グループB

行政

工業地域のマンション
建設に高さ制限を

地方分権の区役所
機能強化の実現

PFIに対する行政
の指導のあり方
(強化してほしい)

緑化

斜面緑地保全
の対策を

桜並木を形成し
観光の目玉に

ビルの屋上の
緑化

生産緑地に
関する支援を

街路樹の整備

川崎の都市型
農業の振興策を

自然と環境

ごみの減量化
への取組みを
市民の力で

循環型社会に
向かえるような
ごみの資源化を

空気は
南部より
北部が
汚れてる

防災上の
まちづくり
安全・安心の
まちづくり

自然環境・
旧遺跡を
後世代へ

観光に自然を!!
エコツーリズム
自然環境保全

市民参加の緑地
開発アセスの
ような制度が必要

街並み、
景観を
大切に

川崎区

各区の特徴が知りたい
(それにあつたまちづく
りのため)

川崎の顔
川崎駅周辺の
充実化

川崎区ルネッサンス
- 40歳以下の人にも
充分魅力的な街

川崎区の川と海を生かし
たまちづくり(トータルで)

川崎区は坂がないので、
それを生かしたまちづくりを

山・川・海を
つなぐ
まちづくり

学校

学校・幼稚園・
保育園において
も環境教育を

小・中学校の統廃
合による教育の
活性化とまちづくり

子どもが
(自由に)遊べる
公園の整備

子供に夢がもてる
まちづくり(子供の
意見尊重)

空き教室の大胆な開放が
まちづくりに寄与

まちづくり

まちづくり
ノーマライゼーション
のまちづくり

一度失うと取り戻す
のが大変なので、
壊す前にじっくり
話し合いを
(どこか倉庫など)

人口減少時代の
まちづくりへ
持続可能な都市へ

まちづくりは「人」
づくり

まち壊しの現状から
まちづくりへ

高齢者・身障者
への配慮

事業者の
適正負担を

土地利用転換の
ルールを

各年齢層にあつた
まちづくり
(1カ所全部でなく)

人を中心に据えた
まちづくり

自然

スーパー堤防上
の整備(多摩川)

自然、緑を守る
だけでなく、
増やす努力

自然的環境保全
配慮制度を

多摩川の自然!!

ニヶ領用水が幸区
の途中までなのでそ
の先を考えたい

緑の30プランは
どうなったの?

水と緑をまち
づくりの根幹に

道路

小杉再開発は
一時的に人口
が増えるが
将来を考える
必要がある

駅前の駐車場の
整備(宮崎台)

中原は自動車
(車優先)より歩
行者・自転車中
心のまちづくり

車社会をやめて
路地の復活

子供の目線からの道づくり

交通網の相互乗り入れ

歩道橋の改善

グループB

- ・スーパー堤防の利用（桜とか）
- ・斜面保全（30%）と自然緑地を増やす
- ・ニヶ領用水について（復活）
- ・川崎ブランドの強化
- ・トラスト運動
- ・企業などの屋上を緑化して
- ・街路樹が枯れているので枯らさないで
- ・ゴミの減量（ガス化溶融炉）は 市民の意識改革
- ・空気が北部の方がきたないので、考えて（自転車優先）
- ・子供遊べない 橘樹郡衙
- ・公園でボール遊びができないので、遊べる公園がほしい
- ・統廃合又は大胆な開放
- ・学校の開放
- ・子供に夢を
- ・まちづくりは人づくり
- ・市民が主体
- ・ノーマライゼーションのまちづくり
- ・路地で遊ぶ
- ・後世につなげる町づくり
- ・中・低層住宅 規制化
- ・自然を甘くみない 安心・安全な町